森林吸収源対策推進のための地域協議会の位置付け及びその取組

ゼロカーボン北海道

↓

ゼロカーボン北海道推進本部
（本部長：知事）

↓

ゼロカーボン北海道空知地方推進本部
（本部長：振興局長）

北海道森林吸収源対策推進計画

↓

森林吸収源
プロジェクトチーム
（本庁関係課）

連携

連携

森林吸収源対策推進空知地域協議会

検討

↓

市町村森林整備計画実行管理推進チーム

市町村 | 森林組合 | 企業 | 団体

実行
（道が支援）

手入れが行われていない森林で間伐等を実施

ゼロカーボン北海道推進本部

○「ゼロカーボン北海道」実現に向け、庁内関係部局が連携した取組の推進

○地域の実情に合わせた取組を振興局内関係者が機動的に連携して進める

（地方推進本部）

森林吸収源プロジェクトチーム

○非FM林や造林未済地の情報リスト化、現状分析

○森林整備につなげる方法を検討（譲与税事業のメニュー、要領等）

○市町村ごとの二酸化炭素吸収量（参考値）算出

○道有林での積極的な間伐の実施や国有林への森林整備の働きかけ

森林吸収源対策推進空知地域協議会

○各市町村の以下の情報について提供を行った上で、森林環境譲与税などを活用した森林整備の実施を支援

①非FM林リスト

②森林吸収量の算定結果

③造林未済地リスト

○この他、道産木材の利用促進や企業等と連携した森林づくりに係る協議会との連携を通じた取組の推進

市町村森林整備計画実行管理推進チーム

○意向調査で回答があった箇所を優先的に、森林経営計画や経営管理権集積計画を策定し、森林整備につなげられるよう支援

○譲与税を活用した新規の森林整備事業等を創設できるよう支援

○「地方公共団体実行計画」に森林吸収源対策の実施目標を定められるように支援

FM率向上に向けたそれぞれの主体の役割

協議会

・市町村ごとの森林吸収量の算定結果の提供
・非FM林リストの提供
・事例や仕様書などの情報共有
・他協議会との連携（情報提供など）

・振興局内の非FM林リスト進捗状況や課題のとりまとめ（PTへ報告）

市町村森林整備計画実行管理推進チーム

・意向調査で回答があった箇所を優先的に森林整備につなげられるよう支援
・現地確認等により間伐等実施箇所の選定
・間伐等の実施に必要な事業の検討
・実施に向けた年次計画作成

・市町村の非FM林リスト進捗状況や取組の課題を協議会へ報告

森林吸収源PT（本庁）

・市町村ごとのFM率、森林吸収量の算定
・非FM林リストの作成
・間伐のメニュー等の検討

・全道の非FM林リスト進捗状況のとりまとめ
・課題の解決に向けた検討

そらちゼロカーボンチャレンジ
実施要綱

１　目的

道では、２０５０年までに温室効果ガスの排出量実質ゼロを目指すとともに、環境と経済・社会が調和しながら成長を続ける「ゼロカーボン北海道」の実現に向けて、オール北海道での取組を強く推し進めているところである。

この「ゼロカーボン北海道」の実現には、道民一人ひとりが意識を変え、自ら責任を持って行動することが必要であることから、職員が環境に配慮した行動に率先して取り組むよう、重点的に取り組む環境配慮行動を「ゼロカーボンチャレンジ」として定め、職員の行動変容と習慣化を図る。

２　実施期間

令和４年(2022 年)２月から令和５年（2023 年）３月３１日まで

３　対象者

空知総合振興局・空知教育局全職員

４　取組方法

（１）実施期間を通して取り組む環境配慮行動を定めるとともに、季節性等を考慮し、特に重点的に取り組む環境配慮行動を月別に定める。

（２）毎月、月初めと１５日頃に掲示板や庁内メール、庁内放送で職員に周知する。

５　その他

令和４年度末を目処に、職員の行動変容の状況を把握するためのアンケート調査を実施し、令和５年度以降に向けた見直しを行う。

資料12－2

そらちゼロカーボンチャレンジ

二酸化炭素の削減には、皆さんの環境に配慮した行動が重要です。
職場や家庭で、ゼロカーボンチャレンジに、取り組みましょう！

節電しよう

- 可能な限り階段を使おう
- TVは主電源から切ろう
- コピー機等の省電力機能を活用しよう
- PCのスリープ・モードを活用しよう
- PC画面を適切な　明るさにしよう
- 昼休みは消灯しよう（時間外は、人がいない場所は消灯しよう）
- 金曜日はコンセントを抜いて帰ろう
- 不要なコンセントは抜こう
- 扇風機やサーキュレーターで空気循環しよう

ゴミを減らそう

- 長く着られる服をじっくり選ぼう
- ごみの分別で資源をリサイクルしよう
- マイボトル・マイ　バックを使おう
- 使い捨てプラスチックの使用を減らそう
- 食事を食べ残さないようにしよう
- 「手前どり」で食品ロスを削減しよう
- 詰め替え商品を購入しよう

紙を減らそう

- できるだけ電子決裁で起案しよう
- WEB会議システムを活用しよう
- 両面コピーや裏紙を利用しよう
- 資料を電子化しよう

排出ガスを減らそう

- エコ＆セーフティドライブを実践しよう（ふんわりアクセルや安定走行を心がけよう）
- 地域の食材を選ぼう（輸送にかかるCO2を 減らそう）

空知総合振興局保健環境部環境生活課

ZERO CARBON HOKKAIDO SORACHI Subprefecture

そらちゼロカーボンチャレンジ
（月別重点チャレンジ）

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

二酸化炭素の削減には、皆さんの環境に配慮した行動が重要です。
職場や家庭で、毎月のゼロカーボンチャレンジに、取り組みましょう！

1月
- 節電 可能な限り階段を使おう
- ゴミ減 長く着られる服をじっくり選ぼう

2月　省エネ月間
- 節電 TVは主電源から切ろう
- 節電 コピー機等の省電力機能を活用しよう

3月
- 節電 PCのスリープ・モードを活用しよう
- 節電 PC画面を適切な明るさにしよう

4月
- 紙減 できるだけ電子決裁で起案しよう
- 紙減 WEB会議システムを活用しよう

5月　5/30はゴミゼロの日
- ゴミ減 ごみの分別で資源をリサイクルしよう
- ゴミ減 マイボトル・マイバックを使おう

6月　環境月間
- 紙減 両面コピーや裏紙を利用しよう
- 紙減 資料を電子化しよう

7月　7/7はクールアースデイ
- 節電 昼休みは消灯しよう（時間外は、人がいない場所は消灯しよう）
- 節電 金曜日はコンセントを抜いて帰ろう

8月　消費電力増!!
- 節電 不要なコンセントは抜こう
- 節電 扇風機やサーキュレーターで空気循環しよう

9月
- ゴミ減 使い捨てプラスチックの使用を減らそう
- ゴミ減 ごみの分別で資源をリサイクルしよう

10月　3R推進月間　食品ロス削減月間
- ゴミ減 食事を食べ残さないようにしよう
- ゴミ減 「手前どり」で食品ロスを削減しよう

11月
- 排ガス減 エコ＆セーフティドライブを実践しよう（ふんわりアクセルや安定走行を心がけよう）

12月
- 排ガス減 地域の食材を選ぼう（輸送にかかるCO2を減らそう）
- ゴミ減 詰め替え商品を購入しよう

空知総合振興局保健環境部環境生活課

資料12－3

「ゼロカーボン北海道チャレンジプロジェクト」
４つの重点プロジェクト、９つの項目、３２の取組の呼びかけ

■「ゼロカーボン北海道」の実現に向けて、道民の皆様や事業者の方々に対して、脱炭素に向けたライフスタイル・ビジネススタイルの転換につながる取組を広く呼びかけます。

衣

✓愛着ある服を長く大切に着よう
✓長く着られる服を選んでみよう
✓服をレンタル・サブスクしてみよう
✓着なくなった服は資源として回収に出そう

食

✓地元の食品や旬の食材を食べよう
✓すぐ食べるものは「てまえどり」
✓食品ロス削減！食事をおいしく残さず食べきろう
✓食材の買い方、保存方法を工夫しよう

住

✓CO2排出量を知ろう
✓住宅の住み替え時に北方型住宅2020やZEHの家を選んでみよう
✓節電・節水に取り組もう
✓家電の買い換え時に省エネ家電を選ぼう
✓太陽光パネルを設置しよう

ごみ(廃棄物)

✓プラスチックごみの削減、マイボトルを持ち歩こう
✓海をきれいにしよう
✓ごみ拾い運動に参加して街をきれいにしよう

教育

✓ 環境の未来について考えよう
✓子どもを通じて親子で学ぼう
✓家族で環境の取組をやってみよう

スポーツ＆健康

✓通勤・通学・レジャーでは、ウォーキングや自転車を利用してみよう
✓晴れた日は歩いて健康づくりをしよう
✓できるだけ階段を使って体を動かそう

交通

✓EV車を利用してみよう
✓自転車や公共交通機関を利用しよう
✓車の買い替え時に次世代自動車を選んでみよう
✓エコドライブを実践してみよう

森林

✓木を植えて、育てて、楽しもう
✓森林散策でリフレッシュしよう
✓暮らしに木を取り入れよう

ビジネス

✓CO2排出量を知ろう
✓紙の使用を節減しよう
✓ノーマイカー通勤、ノー残業デーを進めよう
✓在宅勤務やワーケーションに取り組もう

ZERO CARBON HOKKAIDO SORACHI Subprefecture

北海道クールアース・デイ版

そらちゼロカーボンチャレンジ

北海道クールアースデイ取組期間[6/23～7/21]には、従来の取組に加え
＋（プラス）の取組にもチャレンジしよう！　★7/7は重点推進の日です★

節電しよう

- 可能な限り階段を使おう
- TVは主電源から切ろう
- コピー機等の省電力機能を活用しよう
- PCのスリープ・モードを活用しよう
- PC画面を適切な　明るさにしよう
- 昼休みは消灯しよう（時間外は、人がいない場所は消灯しよう）
- 金曜日はコンセントを抜いて帰ろう
- 不要なコンセントは抜こう
- 扇風機やサーキュレーターで空気循環しよう

＋ ・ノー残業デーを進めよう

＋ ・節電に加え節水もしよう

ゴミを減らそう

- 長く着られる服をじっくり選ぼう
- ごみの分別で資源をリサイクルしよう
- マイボトル・マイ　バックを使おう
- 使い捨てプラスチックの使用を減らそう
- 食事を食べ残さないようにしよう
- 「手前どり」で食品ロスを削減しよう
- 詰め替え商品を購入しよう

＋ ・ごみ拾いに参加をしよう

＋ ・環境の未来について考えてみよう

紙を減らそう

- できるだけ電子決裁で起案しよう
- WEB会議システムを活用しよう
- 両面コピーや裏紙を利用しよう
- 資料を電子化しよう

排出ガスを減らそう

- エコ＆セーフティドライブを実践しよう（ふんわりアクセルや安定走行を心がけよう）
- 地域の食材を選ぼう（輸送にかかるCO2を 減らそう）

＋ ・自転車や公共交通を利用しよう

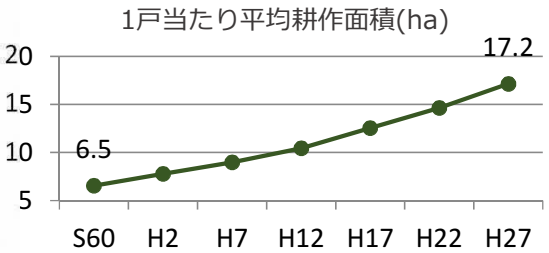
空知総合振興局保健環境部環境生活課

そらち2030 スタートダッシュプロジェクト

資料13

ゼロカーボン北海道	北海道新幹線札幌開業	SDGs	北海道Society5.0
2030年までにCO2を2013年度比35%削減(中期目標)	新函館北斗～札幌間 2030年度開業	2030年までに持続可能な社会を目指す国際目標	2030年を想定した北海道の未来社会

空知の農業



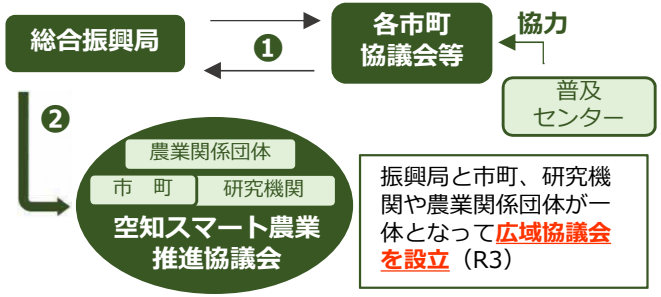
■管内の農業は、**人口減少による深刻な担い手不足**の中、営農活動の効率化を進め、**経営規模を拡大**。

■水田面積が全道の４割を占める空知において、**農業部門での温室効果ガス削減はゼロカーボン北海道の実現に大きく貢献**。

■こうした課題の切り札となる**スマート農業の更なる普及推進**のためには、**具体な効果を示すデータが必要**。

そらち流「スマート農業」実証事業

■スマート農業機器の導入効果を示す定量的なデータを収集するための実証実験を実施
■得られたデータを広域協議会を通じて市町や農業関係団体等と共有し、導入を促進



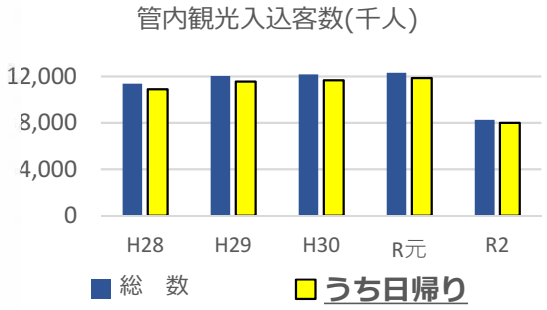
振興局と市町、研究機関や農業関係団体が一体となって**広域協議会を設立**（R3）

❶実証試験を実施
各市町の協議会等と協力し、ドローン防除や水管理等、**CO2削減や稲作特有の課題解決に資する実証実験を実施し、導入効果の定量的なデータを取得**

❷得られた知見の共有
得られた知見を**協議会を通して管内で共有し、スマート農業の導入促進**や**新たな試験テーマの掘り起こし**につなげる

期待される効　果
・未来技術を農家にとって身近なものとし、今後の普及を促進
・農業が若者に選ばれる産業に
・農作業の効率化による温室効果ガス排出削減

空知の観光



■観光入込客数が横ばいで推移する中、2030年度の新幹線札幌開業のチャンスを生かすためには、**札幌などからの気軽におでかけできる**という**空知の特徴を活かした新たな取組**が必要。

■**CO2排出削減に配慮した観光スタイル**や、コロナ禍において人気が高まっている**密になりにくい安全な観光への需要**にも対応。

そらち流「安全・近距離・低炭素」観光推進事業

■自転車や公共交通を活用し、ＣＯ２削減に配慮した観光スタイルを構築
■空知の資源を総動員し、ターゲット別の空知型マイクロツーリズムを創出
■各事業の実施時において、職員がスマホを活用し、イベントのライブ配信等を実施

低炭素観光の推進

❶そらちサイクリングツアー
ワイナリーや炭鉄港など**テーマに沿ったガイド付きのモニターツアー**を実施

❷レンタサイクル周遊促進キャンペーン
公共交通機関＋レンタサイクル利用者を対象として、**飲食店等の特典**を付与

❸JRヘルシーウォーキング&炭鉄港コラボ企画
ＪＲヘルシーウォーキングとのコラボで炭鉄港を生かした**ＣＯ２削減に配慮した観光スタイル**を推進

ターゲット別空知型マイクロツーリズム

❶そらち de デイキャンプ 家族向け
地元食材を使ったバーベキューなど、**空知のデイキャンプの楽しみ方について知る教室を開催**し、リピーターを獲得

❷カフェめぐり誘客キャンペーン 女子向け
カフェやファームレストランのＰＲ冊子作成と誘客キャンペーン

❸「ワインと食」周遊促進 大人向け
ワイナリーや観光地をめぐるスタンプラリーや**民間企業と連携したモデルルート**の創出・商品化検討

期待される効　果
・ウィズコロナ時代の観光需要に対応　**[安全]**
・空知の資源と地理的な強みを活かした交流人口の拡大　**[近場]**
・自転車や公共交通の活用など、環境に優しい旅行の推進によるCO2排出削減 **[低炭素]**

資料14

ガイド付き

夏を満喫！花畑とスイーツをめぐる

サイクリングモニターツアー In 北空知

紹介文

■開催日：令和４年（2022年）７月30日(土)　※小雨決行
（雨天の場合：７月31日(日)順延）
■時　間：9:30～15:30（9:00集合）
■集合場所：ラ・カンパーニュホテル深川
（〒074-0003 北海道深川市３条６番７号）
■参加費：無料
※往復の交通費、昼食代、お菓子屋さんでの買い物は自己負担。
※レンタルする自転車の種類によっては、レンタル料が別途かかります。
■定　員：10名（参加者は抽選により決定）
■応募締切：令和４年（2022年）７月15日(金)17:00

【行程（約50km）】　※変更する可能性があります。
・大黒屋菓子舗@妹背牛町
・ひまわりの里@北竜町（ひまわり観光センターで昼食）
・ローズガーデンちっぷべつ、餅菓子と喫茶　日日@秩父別町
・洋菓子工房北いち輪@深川市

【参加条件】
・サイクリング初心者の方
・高校生以上、身長150cm以上の方
※高校生の方は保護者の承諾が必要です。
・ツアー終了後、アンケートにご記入いただける方

【申込・お問合せ先】
空知総合振興局産業振興部商工労働観光課（〒068-8558　岩見沢市８条西５丁目）
TEL：０１２６－２０－０１８５（直通）
FAX：０１２６－２５－９７１２
Mail：mitsui.moeko@pref.hokkaido.lg.jp　（hokkaidoの後ろは「ｴﾙ・ｼﾞｰ」です。）
担当：三井、佐々木

資料15

令和４年６月２８日

行　　事　　等	ＪＲヘルシーウォーキング2022「JR室蘭駅・母恋駅～室蘭駅イベントウォーク」での炭鉄港PRブース設置について
日　　時	令和４年７月１０日（日）
場　　所	室蘭駅構内
内　　容	**ポイント** ■ **JR ヘルシーウォーキング 2022 において炭鉄港コラボ企画を開催中** ■ **室蘭駅・母恋駅～室蘭駅イベントウォーク開催に併せて、室蘭駅に PR ブースを出展し、パンフレットの配布や、炭鉄港グッズの販売等を実施** 当局では、鉄道ファン等に向けた炭鉄港の普及及びＪＲの利用促進を目的として、ＪＲ北海道主催のイベント「ＪＲヘルシーウォーキング2022」と連携したコラボ企画を実施しています。 この度、７月10日（日）に、「室蘭駅・母恋駅～室蘭駅イベントウォーク」開催に併せ、室蘭駅に炭鉄港PRブースを設置しパンフレットの配布や、炭鉄港グッズの販売等を実施します。 令和３年度実施状況 ◆　炭鉄港コラボ企画の概要 「炭鉄港コース」対象駅のイベントウォーク及びいつでもウォークの中から３コースに参加し、専用ハガキにスタンプを３つ集めて、令和４年11月20日（※当日消印有効）までに応募すると、抽選で800名様に記念冊子とノベルティをプレゼントします。 ◆　炭鉄港関連対象コース １　イベントウォーク：7月10日（日）室蘭駅・母恋駅～室蘭駅ウォーク ※9月以降は岩見沢・追分・南小樽にて開催予定（8月頃にお知らせ予定） ２　いつでもウォーク：石狩沼田ウォーク、赤平ウォーク、 芦別ウォーク、栗山ウォーク、新夕張ウォーク ◆　ＪＲヘルシーウォーキング炭鉄港コラボホームページ （空知総合振興局ホームページ） https://www.sorachi.pref.hokkaido.lg.jp/ts/tss/JRrenkei2022.html ◆　ＪＲヘルシーウォーキングホームページ https://www.jrhokkaido.co.jp/travel/walking/index.html
参　　考 （経緯など）	新型コロナウイルスの道内感染状況によって、イベントが中止になる場合があります。
報道（取材）にあたってのお願い	炭鉄港の更なる普及啓発のため、積極的な報道をお願いします。
担　　当	空知総合振興局地域創生部地域政策課 主査（産炭地振興） 担当者：大津　電話０１２６－２０－００３４（内線40792）

配布パンフレット

○ 炭鉄港めしパンフレット

炭鉄港地域独自の料理を生み出した当時の歴史的背景を紹介するとともに、現在でも本場の味を堪能できる各地の店舗を紹介しています。

○ 炭鉄港ガイドマップ

炭鉄港に関する施設等が一覧できるガイドマップです。炭鉄港グルメ・炭鉄港のストーリー・炭鉄港がある 13 市町の歴史も掲載しています。

炭鉄港グッズ販売リスト

商品名	販売単価（税込）
炭鉄港ブックレット	550円
炭鉄港切手シート（3種×4）	1,500円
立坑タオル	1,300円
立坑てぬぐい	1,200円
炭鉄港ピンバッチ	550円
缶バッチ	380円
キーホルダー	380円

各商品は数に限りがあります。

R４年度　空知スマート農業推進事業の概要について

空知スマート農業推進室

スマート農業推進事業の概要

- 管内ではスマート農業技術の導入効果を定量的に分析した試験結果が不足
- 各地の協議会等では、地域のニーズに合わせて機器の使用感等を研究中
- 普及センターとの連携で協議会等の取組を技術的に支援し、実証試験へ発展

空知管内におけるスマート農業の広がり

農業者がスマート農業技術の有用性について、営農体系や経営規模に応じて判断できるきっかけが多いほど、スマート農業への関心が高まり普及が加速化する。

実証試験の実施

実証試験を実施しスマート農業がもたらす効果を定量化することで、費用対効果の予測ができる。

農業者間の意見交換

作業の疲労感の軽減等、定性的な導入効果についても、事前に把握し、導入の参考にできる。

活用方法の検証・共有

各地域の通信環境や、農地の整備状況に合わせた、スマート農業技術を検証・共有することで、期待通りの効果を発揮できる。

各地域における協議会等がこれらの活動を担い、スマート農業の普及に貢献

空知管内における普及推進上の課題と独自事業の実施

定量的な実証試験データの不足

空知管内では、助成制度を活用した実証試験が行われているものの、その地域は限定的で、定量的な実証試験データが不足している。

スマート農業の更なる普及推進には・・・

地域の協議会等で行われている機械等の使用感の研究やデモンストレーションに普及センター等が関与し定量的な実証試験に発展させることで、機械等導入の判断基準となる導入効果データの増加を狙う。

空知スマート農業推進事業の実施フロー

空知スマート農業推進室

① 各市町のスマート農業に関する協議会等に対し、実証試験の実施を委託

② 普及センターの協力の元、定量的なデータを取得する実証試験を実施

各市町のスマート農業協議会等

空知農業改良普及センター

③ 得られた定量的なデータを基に、機械等導入効果のレポートを作成し、成果品として提出

④ 得られた知見を協議会を通して管内で共有し、スマート農業の普及推進や更なる試験テーマの掘り起こしにつながる。

空知スマート農業推進協議会

- 農業関係団体
- 市　町
- 研究機関

想定される実証試験の例

- ドローンによる、作業時間の短縮と燃費改善によるCO_2削減効果を検証
- 水管理システムの導入による、作業時間の短縮効果を検証